海外留学体験記

昨年度の長期交換留学、中期留学の各プログラムに参加した3人の学生たちの体験記を紹介する。現地の大学での授業参加や文化交流など留学に関わるさまざまな体験を寄せてもらった。

※本学は、国際交流協定校17カ国・地域21大学と活発な交流を展開している。

英語コース

米国　オレゴン大学に長期交換留学

鈴木　郁実（商4）

イベントに　クラブ活動に

人とつながることで 視野が広がり知識もアップ

「人とつながる」。これが、アメリカのオレゴン大学での長期交換留学での私の大きなテーマでした。正規授業のための勉強に費やした時間もさることながら、さまざまな人とコミュニケーションを積極的に取る時間を大切にしていました。

講義での質問や不明点がなくとも教授の研究室を頻繁に訪ね、話す機会を増やしたり、会話の中から有益な情報を得たりしました。

また、授業の後にはさまざまなイベントやクラブ活動に参加し、毎週木曜日には1時間ずつ三つの活動に顔を出していました。イベントは友だちと会ってコーヒーを飲みながら話すだけのものもあれば、ディスカッション形式で講義のような勉強会もあります。自分が少しでも興味を持ったものや友達から情報を得たイベントは、時間をうまく作ってすべて参加していたため、たくさんの国や地域の人と出会い、政治や文化の深い話もすることができました。

人とのつながりは新たなつながりを生み出すきっかけともなり、私が興味を持っている業界で働く現場の方とのインタビューにも成功。いろいろと話を聞くことができました。

自分の時間を柔軟かつ効率的にマネジメントし、とにかく外に出て行動することで、完璧な英語を話すことより自分の考えを表現する大切さを学び、私自身の心の成長にもつながり、自分に自信を持てるようになりました。

◀ 後列右端が鈴木さん。ホストファミリーたちと

ドイツ語コース

ドイツ　マルティン・ルター大学 ハレ・ヴィッテンベルクに長期交換留学

青島　幸輝（法4）

タンデムで語学力向上

言語を互いに教え合い 現地でプレゼンも

ドイツでの留学生活は、学業以外でも充実した日々を過ごすことができました。

正規授業では、国際政治の授業を履修し、毎日30ページほどの文献をドイツ語で読まなければなりませんでした。最初は辞書を片手に熟読していましたが、半年も経つと辞書を使わずに読めるようになりました。さらに帰国前のゼミでは、ドイツ人と共同で「国際機関の正統性」というテーマでプレゼンテーションをしました。政治学科のドイツ人と共同で発表したことは、貴重な経験となりました。

また、専門科目を受講することでドイツ語と政治についての専門知識を深化させることができたと思います。

語学力の向上のためにドイツ人とタンデムをしていました。タンデムとは、異なる言語を話す2人がお互いの言葉を学ぶことです。ドイツ人に毎週カフェでドイツ語の分からない点などを教えてもらい、その代わりに日本語を教えました。この経験を通してドイツ人の素の部分も垣間見ることができたと思います。

タンデムをしているうちにもっと日本をドイツ人に知ってもらいたいと思うようになり、ボランティアで日本語学科の学生に毎週日本語の授業を行いました。この授業に参加していた学生が今夏から専修大学に留学することになり、うれしく思っています。

留学の集大成として、ハレ市独日協会で100人の前でドイツ語を使い、日本についてのプレゼンテーションを30分間行いました。このように主体的・能動的に行動した結果、多くの外国人と触れ合うことができました。

他にも、ドイツ人4人との共同生活やホームステイ経験など語りきれないほどの思い出ができました。充実した留学生活を送ることができたと自負しています。

▲ 日本語学科の学生たちと。前列右端が青島さん

コリア語コース

韓国　檀国大学に中期留学

四方田　怜美（経済4）

優しい友人に囲まれ

異文化の中での経験 成長した自分を実感

▶ クラスメートと。右から2人目が四方田さん

甘えの通用しない環境で語学を身につけたいと考え、韓国での中期留学に挑戦しました。留学前は、語学力に多少の自信を持って出発しましたが、留学初日に出会った檀国大学の学生とは、辞書やジェスチャーを使わなければ会話が成り立たず、会話力の無さを痛感しました。

そこで、帰国までに現地の方々とスムーズな会話ができるようになるという目標を立て、毎日現地の友人と過ごし、休憩時間も他国の留学生と、共通言語である韓国語を使って積極的に会話するなど、韓国語に常に触れるよう努力しました。

現地で一番仲良くなった友人たちが、私の知らない韓国文化や料理を紹介してくれたり、私の未熟な韓国語を一生懸命に聞き、会話の練習をしてくれました。時には日本と韓国の文化の違いや日韓問題について熱く話し合うこともありました。

私は韓国は、まさに「赤」が似合う国だと思います。というのも、情熱にあふれた人が多かったからです。一度仲良くなると、日本人の私にもとても親切にしてくれ、遊び、勉強に全力で取り組む学生が全体的に多いように感じ、良い影響を受けました。

食事は本当に辛いものが多く、ほとんどの料理に唐辛子が使われています。

また、学校の食堂にはキムチの無料バーが設置されているほどでした。食文化の違いに圧倒されました。

韓国留学を通し、異文化の中で生活することで、日本では味わうことのできないことを経験したり、またさまざまな国から来た留学生とも交流を深めることができました。これらの経験は、日本にいては絶対に体験することができず、あえて逆境に自らを置いたこと、思い切って行動したことで得られた成果だと思います。今回の留学で、自分を一回りも二回りも成長させることができたように感じています。